

平成29年土佐清水市議会定例会12月会議会議録

第8日（平成29年12月11日 月曜日）

~~~~~・~~~~~・~~~~~

議事日程

日程第1 報告第16号「専決処分した事件の報告について（平成29年度土佐清水市一般会計補正予算（第5号）について）」から報告第19号「専決処分した事件の報告について（訴えの提起について）」までの報告4件及び議案第59号「平成29年度土佐清水市一般会計補正予算（第7号）について」から議案第81号「土佐清水市立市民図書館の指定管理者の指定について」までの議案23件、計27件

（質疑）

日程第2 一般質問

~~~~~・~~~~~・~~~~~

本日の会議に付した事件

日程第1から日程第2まで

~~~~~・~~~~~・~~~~~

議員定数 12人

現在員数 12人

~~~~~・~~~~~・~~~~~

出席議員 12人

|     |         |     |          |
|-----|---------|-----|----------|
| 1番  | 甲藤 眞 君  | 2番  | 田中 耕之郎 君 |
| 3番  | 細川 博史 君 | 4番  | 前田 晃 君   |
| 5番  | 浅尾 公厚 君 | 6番  | 森 一美 君   |
| 7番  | 小川 豊治 君 | 8番  | 西原 強志 君  |
| 9番  | 永野 裕夫 君 | 10番 | 岡崎 宣男 君  |
| 11番 | 仲田 強 君  | 12番 | 武藤 清 君   |

~~~~~・~~~~~・~~~~~

欠席議員

なし

~~~~~・~~~~~・~~~~~

事務局職員出席者

議会事務局長 窪内 研介 君 局長補佐 伊藤 牧子 君

議事係長 前田 利実 君 主 幹 伊藤 紀明 君  
主 査 弘田 孝欣 君

~~~~・~~~~・~~~~

出席要求による出席者

|                                  |         |                                          |         |
|----------------------------------|---------|------------------------------------------|---------|
| 市 長                              | 泥谷 光信 君 | 副 市 長                                    | 磯脇 堂三 君 |
| 会 計 管 理 者<br>兼 会 計 課 長           | 横山 周次 君 | 税 務 課 長 兼<br>固 定 資 産 評 価 員               | 中山 優 君  |
| 企 画 財 政 課 長                      | 横山 英幸 君 | 総 務 課 長                                  | 野村 仁美 君 |
| 危 機 管 理 課 長                      | 岡田 敦浩 君 | 消 防 長                                    | 上原 由隆 君 |
| 消 防 次 長 兼<br>消 防 署 長             | 宮上 眞澄 君 | 健 康 推 進 課 長                              | 戎井 大城 君 |
| 福 祉 事 務 所 長                      | 徳井 直之 君 | 市 民 課 長                                  | 中津 恵子 君 |
| 環 境 課 長 兼<br>清 掃 管 理 事 務 所 長     | 田村 善和 君 | ま ち づ くり 対 策 課 長                         | 早川 聡 君  |
| 観 光 商 工 課 長                      | 倉松 克臣 君 | 農 林 水 産 課 長 兼<br>農 業 委 員 会 事 務 局 長       | 二宮 眞弓 君 |
| 水 道 課 長                          | 楠目 生 君  | じ ん け ん 課 長                              | 小松 高志 君 |
| 特 別 養 護 老 人 ホ ー ム<br>し お さ い 園 長 | 山本 弘子 君 | 収 納 推 進 課 長                              | 田村 光浩 君 |
| 教 育 長                            | 弘田 浩三 君 | 学 校 教 育 課 長                              | 中津 健一 君 |
| 生 涯 学 習 課 長                      | 弘田 条 君  | 教 育 セ ン タ ー 所 長 兼<br>少 年 補 導 セ ン タ ー 所 長 | 亀谷 幸則 君 |
| 選 挙 管 理 委 員 会<br>事 務 局 長         | 沖 比呂志 君 | 監 査 委 員 会 事 務 局 長                        | 文野 喜文 君 |

~~~~・~~~~・~~~~

午前10時00分 開 議

○議長（仲田 強君） おはようございます。定刻でございます。

ただいまから平成29年土佐清水市議会定例会12月会議第8日目の会議を開きます。

日程第1、市長提出報告第16号「専決処分した事件の報告について（平成29年度土佐清水市一般会計補正予算（第5号）について）」から報告第19号「専決処分した事件の報告について（訴えの提起について）」までの報告4件及び議案第59号「平成29年度土佐清水市一般会計補正予算（第7号）について」から議案第81号「土佐清水市立市民図書館の指定管理者の指定について」までの議案23件、計27件を一括議題といたします。

ただいまから質疑に入ります。

ただいまのところ通告による質疑はございません。質疑の方はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(仲田 強君) 質疑なしと認めます。質疑を終わります。

日程第2、ただいまから一般質問を行います。

発言通告順により質問を許します。

7番 小川豊治君。

(7番 小川豊治君発言席)

○7番(小川豊治君) 皆さんおはようございます。ついこの前まで猛暑が続いておりましたけれども、ここ数日来、寒さが一段と厳しく早くも冬支度に追われるようになりました。けさは冒頭1番、細川議員より力強い言葉をいただきまして、実は私はちょっと最近風邪を引きましてせきが出てまして、なかなか聞き苦しい点があると思いますけれども、よろしく願いいたしたいと思います。そしてまた一部でインフルエンザが非常に流行しておるようでございますので、皆さん方にはぜひかからないように願いながら通告に基づきまして2点の質問を行います。

まず1点目の水道事業の現状と今後の課題についてお伺いいたします。この問題については、28年9月会議と29年9月会議で西原議員並びに武藤議員が詳細にわたり質問しておりますので、できる限りその項目は避けて質問を行いたいと考えますけれども、一部重複する部分はあるかと思っておりますけれども、ご了解を賜りたいと思います。

水道課長にお伺いいたします。給水世帯数と給水人口について、平成27年度から29年度の3カ年についてまずお伺いいたします。

○議長(仲田 強君) 執行部の答弁を求めます。

水道課長。

(水道課長 楠目 生君自席)

○水道課長(楠目 生君) おはようございます。お答えいたします。

給水世帯数及び給水人口は平成27年度、上水道3,943世帯、7,848人、簡易水道3,282世帯、6,273人、合計7,225世帯、1万4,121人。平成28年度、上水道3,914世帯、7,701人、簡易水道3,286世帯、6,186人、合計7,200世帯、1万3,887人。平成29年度分は9月末の数字ですが、上水道3,913世帯、7,690人、簡易水道3,262世帯、6,117人、合計7,175世帯、1万3,807人。

給水世帯数、給水人口については、ともに年々減少傾向となっています。平成27年度と比べ平成29年9月末では、給水世帯数が50世帯、給水人口が314人減少となっています。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） どうも。課長も答弁がありましたように、いわゆる毎年徐々に減っていることが理解いたしました。

次に建設改良費についてお伺いいたします。ここ数年来、大型事業が施行されたように思います。斧積の簡易水道、そしてまた大岐・久百々地区の大規模改良工事、そして現在、窪津権現地区の改良工事をしておられるところですのでけれども、平成27年度から29年度の事業費について、いわゆる大型事業なんですけれども、それについてどうなっておるかお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 平成27年度から平成29年度までの年度別の主な事業と事業費ですが、平成27年度、斧積簡易水道1億6,500万円、窪津簡易水道220万円、中浜簡易水道330万円、計1億7,050万円。平成28年度は、下ノ加江簡易水道530万円、窪津簡易水道開地区1億1,490万円、窪津簡易水道1億2,500万円、津呂権現・大谷簡易水道2,000万円、中浜簡易水道2,120万円、三崎上水道5,288万9,000円、計3億3,928万9,000円。平成29年度は、下ノ加江簡易水道6,150万円、窪津簡易水道開地区2,720万円、窪津簡易水道1億6,560万円、窪津権現・大谷簡易水道1億8,900万円、三崎上水道2,823万5,000円、計4億7,153万5,000円となっております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 毎年、工事がふえていることがわかりましたが、随分と整備されていることはわかります。そこで一応今後の大規模改修と申しますか、その計画なんですけれども、現在、窪津権現地区ですかね、あれ含めて工事をされておるようなんですけれども、今後の大規模改良計画について、どのように考えておるかその点についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 現在、計画されている平成30年度以降の事業は、平成30年度、窪津簡易水道1億円、津呂権現・大谷簡易水道2,200万円、久百々・大岐簡易水道5,800万円、三崎上水道1億5,000万円、計3億3,000万円。平成31年度は、三崎上水道2億2,000万円。平成32年度は、三崎上水道1億5,600万円。平成33年度は、三崎上水道1億2,100万円、ほか2,900万円、計1億5,000万円となっております。

平成34年度以降は、施設の位置づけまでは行っておりませんが、年間約1億5,000万円から2億円程度の事業費で施設の更新を行っていきたいと考えております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 一応来年度以降についてわかりましたけれど、三崎の上水道、今お聞きしますと1億円以上の事業費で改良する予定になっておるといふことで、これは施設が古いからと、そういった意味でしょうか。その辺に集中的投資なんですけれども、その点はいかがでしょう。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 三崎の上水道の改良事業については、昭和50年代に施設をつくって、もう老朽化しております。その配水池と取水施設等を主に防衛省の事業を導入いたしまして総事業7億2,000万円ぐらいの事業費で昨年度から着手しております。以上です。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） わかりました。以前に大規模改修といいますか大規模工事をしたときも防衛省の施設の周辺事業の補助金いただいたというふうに記憶しておりますけど、そういった補助事業をいただくということで理解してよろしいでしょうか。

次に本管の総延長なんですけれども、以前から随分とこの議会の場でも質問したわけですが、総延長が何kmか、できれば上水と簡水について、わかっておれば伺いたいと思います。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 本管の総延長、配水管ですが、上水道80.6km、簡易水道90.2km、合計で170.8kmとなっております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） わかりましたが、そのうち新しい管といいますか、耐震管といいますか、それについての取りかえ済みの延長について、現在のところどれぐらい取りかえ済みか、その点伺いたします。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 配水管の総延長のうち耐震管と言われる延長は、上水道 18.9 km、割合で 23.4%、簡易水道 15.3 km、割合で 17%、合計で耐震管の延長は 34.2 km、割合で 20%になっております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） わかりました。それで従来から本管の取りかえ工事なんですけれども、年次計画を持ってされていたように記憶があります。ということは、以前の質問の中で、三崎地区あるいはまた市街地区の越地区なんか、年次計画を持って取りかえしておるといふような答弁があったような記憶がありますが、その点について、いわゆる大規模改修じゃなくて、本管の取りかえですね、古いもんからかえるというふうなことなんですけれども、その点について今年度の予算の計上額と来年度以降の予算の計上見込みなんですけど、その点はいかがでしょう。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 以前のように、市街地等についてちょっと位置づけした区間について取りかえ工事を行ってまいりました。平成 27 年度による配水管の取りかえ工事の実績は、26 年度から繰り越したグリーンハイツを 221 m、現年事業で寿町を 49 m、汐見町を 114 m、窪津を 33 m、計 196 m、合計で 417 m を実施しています。

平成 28 年度以降については、位置づけとしてはされておらず、予算額として年間 500 万円程度は構えております。28 年度以降の取りかえ工事については、漏水調査により漏水箇所を特定し区間または部分的な修繕工事を行っております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 次年度以降 500 万円程度ということですので、できればもっとふやしてほしいという思いがありますけれども、ただ、先ほど言いましたように大規模改修を優先してやっておりますので仕方がないかというふうな思いはあります。

次に漏水の実態と対策についてお伺いしたいと思いますが、28 年度の監査委員による決算審査意見書では、前年度と比べ 5 万 2,620 m<sup>3</sup> 減少しておると、漏水率も 20.2%、上水道が 14.3% で簡易水道が 26.9% であると、全体で 1.6% の減であるというふうな監査委員の報告があります。対策として管の老朽箇所の修繕や維持管理により漏水箇所の早期発見に取り組んだ結果であるとの監査委員の意見書が出されております。そこで、この漏水率について平成 25 年から 28 年度までの 4 カ年についてどのように推移しているか、できれば上水道と

簡易水道別にお伺いいたしたいと思います。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 各年度の漏水率につきましては平成25年度、上水道22.5%、簡易水道23.4%、合計22.9%。平成26年度、上水道22.1%、簡易水道25.0%、合計で23.4%。平成27年度、上水道17.3%、簡易水道27.4%、合計21.8%。平成28年度、上水道14.3%、簡易水道26.9%、合計で20.2%。

上水道については、近年改善が見られますが、簡易水道のほうは高い数値となっております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 今お聞きしますと、毎年一定数量が減少になっておるということがわかりました。取り組みについては、先ほど私が発表しましたように、監査委員のほうからも指摘があったように、老朽箇所の修繕や維持管理に努めておる結果であるというふうに認識いたしておりますけれど、そこで今課長言われたように、上水道で14.3%、簡易水道で26%という高い数字が示されましたけれども、全体で約2割漏水されておるようですが、ちなみに宿毛市と四万十市の漏水率がわかっておればお伺いいたしたいと思います。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 四万十市と宿毛市の漏水率についてですが、四万十市、平成25年度、上水道17.9%、簡易水道16.7%、合計17.7%。平成26年度、上水道16.7%、簡易水道17.2%、合計16.8%。平成27年度、上水道20.1%、簡易水道11.1%、合計18.6%。平成28年度、上水道19.9%、簡易水道9.1%、合計18.1%。

宿毛市は、平成25年度、上水道27.4%、簡易水道13.4%、合計22.5%。平成26年度、上水道19.3%、簡易水道16.6%、合計18.3%。平成27年度、上水道22%、簡易水道12.2%、合計18.2%。平成28年度、上水道19.4%、簡易水道16.2%、合計18.1%となっております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） わかりました。うちよりかは若干ええかないう感じですが、ただ四万十市あるいは宿毛市の場合、四万十川ともう1つは松田川ですか、やはり大きな河川を有していますので、その点うちの場合は河川そのものが小さいじゃないですか。ぜひそういったことについても漏水については十分留意していただきたいと思うところではありますが、次に漏

水の経済的損失についてお伺いいたしたいと思います。全体の漏水量は49万5,649<sup>m</sup>、1日に換算しますと1,357<sup>m</sup>が流出しておるいうふうな状況になっております。ちなみに加久見の上水道で1日当たりの取水量、これことしの10月ですけれども、平均値が2,025<sup>m</sup>ですので、1日の取水量の半分以上が無駄になっておるという計算になります。ということは、いわゆる損失の計算はなかなか難しいと思いますけれども、概算値で結構ですが、1日当たりの損失額、それとまた年間についての損失額はどの程度になるか、その点をお伺いいたしたいと思います。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 漏水に係る費用の正確な数値の計算は不可能ですが、施設管理費のうち動力費、薬品費の費用により試算してみますと、上水道で年間約187万円、簡易水道で年間約266万円、合計450万円くらいと見込まれます。1日当たり上水道で5,100円くらい、簡易水道で7,300円くらい見込まれます。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 年間450万円ですか。この数字が仮に少しでも改善できれば、やはり水道料、その他についても助かるのではないかというふうに思っています。そこで市長にお伺いいたしたいと思いますけれども、本管なんです、先ほど課長の答弁がありましたように、全体延長が170.8kmの中で新しい耐震管が34.2kmですか、ということはまだなかなか全体の中で整備するとすれば相当期間がかかるわけですけれども、先ほど課長が答弁しましたように、27年度が21.8%、28年度が20.2%、これ漏水率なんですけれども、そういうふうに少しずつでも改善はされておるようすけれども、ぜひ限りある資源ですので、有効活用をぜひともしていただきたい、その意味でも積極的な改善を望むところですが、その漏水問題について今後の取り組みについて市長にお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） ご承知のように、市の水道施設というのは上水道が3施設、簡易水道で18施設、合計21の施設を現在管理を行っております。施設の大半は、経年による老朽劣化が進んでおりまして、耐震化とあわせて更新対策が急務となっておるところですが、1つの水道施設全体を更新するというのは多額の予算が伴いますので短期間での対応は困難な状況ではありますが、施設の重要度、更新時期を考えながら計画的に事業を実施してまいりたいと思っております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） なかなか、今大規模改良をしてますので、急にはいけないと思いますけど、ぜひ漏水対策については取り組みをお願いしたいと思います。

次に資本的収入と支出についてお伺いいたします。水道会計は企業会計で、しかも複式簿記を採用しておりますので、私自身が詳細に理解してないわけですが、そういった中での質問となりますが、概要についてまずお伺いいたします。水道企業会計では、収入は収益的収支と資本的収支の2種類があるわけですが、資本的収支には工事費等の補助金が含まれているということですので、主に水道料金が含まれている収益的収支について平成25年度から28年度までの4カ年の実績についてお伺いしたいと思います。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 収益的収支の総収入と総費用について税抜きでお答えいたします。

平成25年度、総収入2億8,121万7,000円、総支出2億4,023万円、差引純利益4,098万7,000円。平成26年度、3億4,158万5,000円、総支出2億7,912万9,000円、差引純利益6,245万6,000円。平成27年度、総収入3億308万5,000円、総支出2億8,800万7,000円、差引純利益1,507万8,000円。平成28年度、総収入2億9,788万3,000円、総支出2億9,110万3,000円、差引純利益678万円となっております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 4カ年見ても、毎年若干減ってきておるということですね。わかりました。そして次に起債なんですけど、水道会計ですので企業債言うていいかどうかあれですが、現在の直近の数字でいいですけども、企業債の現残高は幾らになっておるかお聞きいたしたいと思います。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 平成29年3月末の残高は13億2,973万4,000円です。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 現残高が13億2,900万円ですか。それで、年によって若干違うと思うわけですが、例年の償還額ですね、直近の数字でいいですけども、大体年間どの程度

償還されているか、その点をお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 例年の償還額は、平成25年に1億2,974万8,000円、それから年々減少し平成29年度は1億8万3,000円となっております。過去5年間の平均は1億1,862万3,000円となっております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 13億の借入額で大体年間1億円という償還になるわけですね。それで、今後なんですけれども、据え置きとか、そういった償還年度20年か25年かわかりませんが、あると思いますけれども、最大の償還年度、最大払わないかん年度ですね。もしその年度の金額がわかっておればお伺いしたいと思います。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 現在借りている金額と今やっている事業を試算しますと、今後の償還額の予定は平成30年度は8,634万8,000円で、その後年々増額となり平成34年度にピークを迎え1億43万円の償還額となります。その後は減少となり、平成37年度は9,530万円程度となると予測されます。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 34年度がピークになるということがわかり、後はだんだんと減るということなんですが、わかりました。

次に企画財政課長にお伺いしたいと思います。土佐清水市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みとして平成27年9月に市の人口ビジョンが策定されました。その中で本市の人口ですけれども、パターン1として国立社会保障・人口問題研究所が、パターン2として日本創生会議がそれぞれ推計値を示されております。双方とも推計値は余り相違ありませんけれども、パターン1で見ると平成32年1万3,460人、平成37年1万2,179人となっております。以前にもこの点について質問しましたが、実質上はこの数字より下回る人口減になるのではないかと予想される場所ですけれども、課長は現時点で平成32年と37年の本市の人口の推計値はどのように見ているかお伺いしたいと思います。

○議長（仲田 強君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

さきの9月会議でも小川議員から同様の質問がありましたけれども、国立社会保障・人口問題研究所の推計値というものは、平成22年度の国勢調査の数値をもとに推計したものでありまして、それによりますと平成32年度の本市の人口というのは1万3,460人でありまして、この数値というのは本市の平成27年度の国勢調査人口1万3,778人、それと同程度でございますので、現在のところ本市の人口というのはその推計値より5年早いスピードで進んでいるのではないかと考えております。このことから平成32年度については1万2,000人台、平成37年度については1万1,000人を割り込むところまで減少するものではないかと考えております。以上です。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 推計値より5年早い数字ということで、実際現実問題としてその数字になるかないうふうな思いがあります。そこで、課長より答弁がありましたように、人口減はさらに進むものと予想される場所ですけれども、そうなれば必然的に給水世帯数と給水人口は減少し経営に一層厳しさが増すものと考えられます。そこで水道料金の未収金について、平成27年度と28年度の未収件数と未収額についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 年度末の未収金の件数と金額ですが、平成27年度、過年度分7,356件、2,990万8,000円、現年9,905件、2,425万5,000円、合計1万7,261件、5,416万3,000円。平成28年度、過年度7,543件、3,083万3,000円、現年9,576件、2,106万3,000円、合計1万7,119件、5,189万6,000円となっております。

平成27年度と28年度を比較すると過年度分については件数で187件増、金額92万5,000円の増となっておりますが、現年分については件数329件減、金額319万2,000円の減となり合計で件数142件減、金額226万7,000円の減額となっております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 今の時点で課長にどうこういう議論はしたくはないですけれども、ただ監査委員の指摘、あるいはまた決算委員会での委員の指摘、随分とされてきましたけれども、やはりこういった数字を見ていると滞納額が非常に大きい。5,000万円を超える滞納額があ

るわけですが、この未収金の主な原因と分析についてはどのように判断されているか、その点についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 未収金ができる原因については、所得が少なく支払いを猶予される方もおられますが、払わなければならないという意識の低さが一番の原因だと思われま。電気料金等とは違って水道料金は払わなくてもとめられることはないと思っている方がほとんどで、停水されて初めて連絡、支払いに来るとい人が多いのが現状です。今後とも地道に督促、催告、停水予告、停水という業務を続けていくことが重要だと思います。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 今の答弁聞きますと、ほんとに払わなくても停水はされんという市民が多いという答弁あったわけですが、そうするとですね、やはり厳しい対応の必要があるというふうに私は思います。以前も何回かこの場で質問した際に、課長の答弁の中では過去のそれぞれの課長なんですけれども、一番効果があるのは停水をすることによって効果があるという答弁が随分とされております。そうすると一定支払いをしてくれるということになれば、やはり課長の先ほどの答弁からしても、当然所得が少なくて払えない人については無理といたしますけれども、支払う意思が薄い方については当然停水措置をすべきであろうと思うわけですが、その点について26年から28年度までの3カ年の停水の実績についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 平成26年度から28年度までの3カ年の停水措置をした実績は平成26年度は1回行いました。停水予告81件、うち停水が8件。平成27年度も1回行いました。停水予告129件、うち停水8件。平成28年度は2回行いました。1回目、停水予告142件、うち停水21件。2回目、停水予告113件、うち停水を29件。合計で停水予告255件、うち停水50件となっております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 予告を81件とか142件とかされて、実際停水したのが8件とか、実数は少ないわけですが、そうすると、停水予告をして実際停水したのが1桁なんですけど、そういったことについては結局支払いしていただいたというふうに理解していいんでしょうか、

その点お伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 未収金対策としての取り組みは、督促通知を発送した後6カ月以上の滞納者には催告通知を発送、何も連絡がなければ停水予告通知を発送し、何も進展がなければ停水措置を行っております。停水予告なんかを発送すると連絡があり、全額の支払いができない未納者に対しては、まず現年分を支払って、あと分納とか誓約書等の提出をいただいております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 結局、予告通知をして実際停水したのが1桁ですわね。ということは、あとの人については支払いをしていただいた、納付していただいた、そういう意味になるがでしょうか。その点いかがでしょう。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 連絡があり、未納額の全てを納付していただいたということまでは行っておりません。未納額の完納または分納、誓約書等の提出により停水を解除したようなことを行っております。

停水予告後の未収金の収入ですが、平成26年度は納付額は39万5,000円、平成27年度の納付額は37万9,000円、平成28年度の納付額は93万5,000円というようなことになっております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 課長の答弁がありましたように、納付に対する意欲がないというふうな答弁でしたけれども、行政の公平性を考えると善良に納める方、そういった方について、行政を進める上で不公平感が生じると思いますので、ぜひその点については、悪質と思われる方については停水措置も含めて対応をぜひしていただきたいと思います。

次に今後の水道会計の収支の見通し等についてでございますけれど、先ほど課長の答弁がありましたように、当面の問題として本管の取りかえ工事あるいはまた三崎の上水道の改良工事など多額の設備投資が生じるわけですが、それともう1点、ほんとに5,000万円を超える多額の未収金、そしてもう1つは企画の課長からも答弁がありましたように、予想を超える人口減、そうするとやはり水道会計そのものに厳しい現実が今後あるんじゃないかと考えま

すけれども、今後の収支の見込みといわゆる水道会計の企業の運営についてどのように判断しているか、その点についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 水道課長。

（水道課長 楠目 生君自席）

○水道課長（楠目 生君） 給水収益については督促、催告書の送付、強制停水等を実施し収納率の向上に努めていますが、給水人口の減少による給水収益の減少は避けられない状況となっております。費用についても経費の削減には努めておりますが、施設、管路ともに老朽化が激しく、ここ数年は上水道、簡易水道ともに修繕費が増加傾向となります。このような状況から見て今後の経営状況は大変厳しくなることが予測されますので、水道料金を改定し事業の経営健全化を図り、将来にわたり安心・安全で良質な水を安定的に供給したいと考えております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 今回値上げの条例も出てますので、厳しい状況ですけれども、ぜひ効率化に努めていただきたいと思います。

次に市長にお伺いいたします。昨年の西原議員に対する課長答弁では、料金の値上げは避けて通れない、そしてことしの9月会議で武藤議員への市長答弁では、水道料の改定について水道料金審議会を開催するとのことでしたけれども、その内容と結果についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） 水道料金につきましては、平成10年の7月の改定以来20年も消費税以外の改定を行うことなく運用してまいっております。ただ、先ほど来議論が行われておりますが、人口の減少などにより給水収益の増加が見込めない、そういった中で老朽化した水道施設の更新や耐震化などの整備を実施していく必要があります。このような中、本年4月24日、水道料金審議会のほうへ水道料金の適正化について諮問を行いました。審議会は4月から10月までの間に5回開催され、10月16日に審議結果を取りまとめた答申書が審議会より私のほうに提出されました。

答申の主な内容につきましては、水道事業は我々市民の生活や社会活動を支えるライフラインであり、安心・安全な水が安定して供給されることが望まれる。人口の減少などにより水需要が減少し給水収益の増加が見込めない中、老朽化が進んでいる水道施設の更新や耐震化などの整備を実施していく必要がある。このままでは赤字経営となり資金残高が底をつく見込みである。このような経営状態を改善するためには、より一層の経費の削減等の経営努力を行う必要があるが、それのみでは今後の厳しい経営状況に対して抜本的解決に至らないことが予想さ

れる。将来にわたり安心・安全で良質な水を安定的に供給するには事業の収支バランスが重要であり、水道事業の経営健全化には水道料金の適正化が必要不可欠であると認識した。その上で料金改定について、平成32年4月には上水道と簡易水道の統合が予定されており、現在別々の料金体系を統一し平均15%程度の増額の改定が望ましい。ただし、簡易水道の超過料金については、激変緩和のため平成32年度まで段階的に改正することが妥当である。今後の経営状況の推移を見込み平成30年4月使用分からの改定とすることが適当。また、水道料金の定期的な見直し、経営努力について周知、広報についての附帯意見がつけられておりました。以上です。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） 理由については、先ほど市長も言われましたように、審議会の答申に基づいて今回値上げというふうに出されるように思うところですが、20年全然上げてなかったということのようではありますけれども、水道会計は独立採算制でありますので、やはり安定的な経営や設備投資を見通せばやむを得ないというふうな判断をされますけれども、先ほど市長言いましたように、3カ年の経過措置、激変緩和の措置うか、それほど上がっておるようには思わないわけですが、平均したら14.6%、途中では若干改定が一般超過料金についてはちょっと一時的には下がるかないうふうな条例案だと思いますけれども、その点について最終的には14.6%増なんですけれども、これについての市長の今回の条例案についての考え方がいいますか、その点についてお伺いいたしたいと思います。

○議長（仲田 強君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） 料金改定について平均15%の増額ということでありますが、平成32年4月に上水道と簡易水道の事業統合、これが予定されております。これは全国的な流れの中で行われるわけですが、今回の改定で上水道と簡易水道を同額にしたいと、統一することによって同額にしたいというのが考え方です。

基本使用料10<sup>m</sup>を超える超過料金について、現在の料金に上水道と簡易水道に違いがあり、改定後と比べた場合、簡易水道の上昇率が大きくなります。そこで簡易水道の超過料金を平成30年度、31年度、32年度と段階的に改定し、平成32年度に上水道と同額となるような措置の案、これをお示ししているところでございます。また、今後の料金改定につきましては、この審議会の答申の中では5年を1つのめどとして見直しを行うことを検討するようあわせて答申を受けているところであります。以上です。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

( 7 番 小川豊治君発言席)

○7番(小川豊治君) 一応課長並びに市長からそれぞれ答弁いただきましたが、今後も引き続き市民へ安定的かつ安全な生活用水を供給するための施設の改善や漏水対策には積極的に取り組んでいただきたいと思います。それに何よりも市民への公平の原則から見ても不公平感が感じられる未収金問題、平成28年度末を見ても過年、現年合わせて1万7,119件、5,189万5,890円という実に多額の未収金であります。今回の使用料値上げ改定の条例案が提出されておりますけれど、それとともに未収金対策にもさらに努力をしていただき、市民の皆さんに不公平感が感じられない行政執行を強くお願いいたします。

次に2点目のまちづくり構想と清水ヶ丘大通線について、まちづくり対策課長にも何点か通告しておりましたけれども、時間の都合がありますので、申しわけありませんけれども、ちょっと省かせていただきたいと思います。市長に清水ヶ丘大通線の延長についてお伺いしたいと思います。ここ数年来、前市長や商工会議所の会頭などが新年交流会などの際、市街地北部の大通線、市街地住民の避難場所としての役割、あるいはまた国道321号線のバイパス機能も含めて早期に着工に向けて陳情や取り組みの話がされており、早期に着工できるのではないかなというふうな期待をいたしておるところでございますけれども、前回の第三土地区画整理事業の見直し、将来を展望したまちづくり、人口減など厳しい環境ではありますけれども、近く起こるであろう南海トラフ大地震を想定した場合、早急な完成が望まれます。今までの陳情等を踏まえた取り組みの経過と今後の見通しについてお伺いいたします。

○議長(仲田 強君) 市長。

(市長 泥谷光信君自席)

○市長(泥谷光信君) これまでの経過については、小川議員、十分このご承知だとは思いますが、やはり都市計画の相次ぐ見直しによりまして最終的には、今年度完全に完成するわけですが、今の形になって都市計画自体の変更というのが大変重い、この要望活動するには重い課題であります。というのは、やっぱり国道321号線そのものを高台ルートに上げて加久見まで引っ張っていくというのが我々としての考え方ですが、県といたしましても今言いましたように都市計画で相次いで変更があった末の決定ですので、なかなかガードがかたいといいますか非常に厳しいというのが現実でございます。しかしながら、土佐清水市経済団体連絡協議会、それから国道321号改良促進期成同盟会にもこの高台バイパスというのを去年から要望活動の1つに挙げていただいております、この2つの団体で繰り返し巻き返し、この要望活動を行っております。また南海トラフ巨大地震・津波対策といたしましても、そういう側面からもこの土佐清水市にとって不可欠な高台避難や市内の医療拠点へのアクセス網の確保、そういった切り口からも要望を行っているところであります。ただ、先ほども言いまし

たように、国道バイパスとして都市計画決定がされ整備していた路線が都市計画道路を廃止することを既に決定しておりますので、このところが再度高台ルートを目指すのであれば、単に道路を延長する、単に津波対策という側面ではなくて、まちづくり全体の観点からもう一回検討しなさいという県のほうの指導もありまして、この1年かけてまちづくり構想というのを策定したと、そういう経過がございます。しかしながら、この実現に向けては市民の意向の確認もしながら、また市民の合意形成も要ります。当然要ります。そして財政負担などの多くの課題もがございますので、そのハードルは非常に高いものとは想定しておるところではありますが、土佐清水市民の命を守る道として国道321号の高台ルート整備の実現に向けては粘り強く取り組んでいきたいと考えております。

○議長（仲田 強君） 7番 小川豊治君。

（7番 小川豊治君発言席）

○7番（小川豊治君） まちづくり構想とあわせて都計の見直しがありましたので厳しいと思いますけれど、よろしく願いいたしたいと思います。

それぞれ答弁をいただきました。本市の主要財源である地方交付税の大幅な減額など地方自治にとり厳しい財政運営を余儀なくされておりますけれども、創意工夫の上、知恵を出し合い市民福祉の向上に努めていただきたいと願うところであります。

今会議の初日に市長の提案理由の説明でもありました企画財政課地域づくり支援係長、植杉英輔君が公務中に不慮の事故により急逝いたしました。誠実な人柄で職務に忠実に励んでいただけに非常に残念でなりません。私ごとですけれども、植杉君と私の子供が同級生でありましたので、より親しみを持ち言葉を交わしておりました。また二、三年前より子供さんが陸上やテニスをしており県大会へ出場の際には春野競技場へ家族で応援に出かけ、ともに応援していたものであります。ことしの6月17日、テニスで子供さんが県下で優勝した際にお祝いの言葉をかけたとき、はにかんだ笑顔が今でも脳裏に残っております。仕事の面で市長も詳しく述べられましたけれども、一昨年、ちょうど2年前になりますけれども平成27年12月6日、移住者の件で植杉係長に相談したところ、翌日の7日、早川課長と2人でわざわざ訪問していただき、解決に向かってともに考えていただき、その素早い対応には感謝したところであります。ともすれば私たち、日ごろより日常業務に追われ、よほど急病など緊急性がない限り、つい対応がおくれがちですけれども、彼の行動力と上司である早川課長の対応には公務員として見習うべきであると感じたものであります。

時間になりましたので、以上で終わります。ほんとに大切な職員を失ったこと残念でなりませんけれども、改めて植杉君の功績をたたえご冥福をお祈りいたしたいと思います。

○議長（仲田 強君） この際、暫時休憩いたします。

午前 11 時 02 分 休 憩

午前 11 時 14 分 再 開

○議長（仲田 強君） 休憩前に続いて会議を開きます。

引き続き一般質問を行います。

6 番 森 一美君。

（6 番 森 一美君発言席）

○6 番（森 一美君） 皆さんこんにちは。清友会の森 一美でございます。本日 45 回目の質問をさせていただきます。

早速ですが、きのうの新聞にこういうところが 6 面に載っておりました。これは日曜マーケットニュースで経済サプリーということなんですが、たばこの増税は何のためかということで載っておりました。これは獨協大の森永教授のコラムですけれど、政府・与党が 2018 年度の税制改正で、たばこ税の増税に踏み切る方針を固めた。この増税で 3,000 億円以上の増収が見込まれるとされていますけれど、しかし、このたばこの増税について、15 年度のたばこ税収入というのは 2 兆 1,900 億円ですけれど、その 10 年前は 2 兆 2,400 億円だったと、結局マイナス 500 億円ということでございます。だから森永教授は喫煙者を禁煙させてその健康を守るための増税というのではないかというふうなことを書いておられます。健康になることはいいことなんで私も反対はしませんけれど、私は喫煙者ですんで、恐らく 2 割ぐらい、1 本 20 円ぐらいの増税になって私の支出はふえてくるとは思いますけど、仕方ないことだと思っております。

昨日 I CAN がノーベル賞を受賞いたしました。これは非常にいいことだと思います。核兵器廃絶に向けての第 1 歩だと私も感じました。そのときのニュースでフランスのパンダの赤ちゃんの名前が円夢、ユエンモン、夢がかなうという意味のパンダの赤ちゃんの名前だそうです。この核兵器廃絶に向けての夢がかなえば最高にいいんじゃないかと私も感じております。しかし一方では、トランプ大統領がイスラエルのエルサレムを首都と認めるというような発表があり大騒ぎになっております。これは私はあんまり賛成できないような発表でございました。

そんなこんながありまして世情は非常に厳しい状態であるとは思っておりますけど、本日の質問は市の安全について考えて質問させていただきます。私は、交通安全指導員を今で 15 年させてもらっておりますが、その中でちょっと気になったことがございますので質問させていただきます。

まず総務課長にお伺いします。市役所は多数の車両を保有しております。これを運行しておりますが、これだけの数の車両を保有し運行するには、安全運転管理者を置き安全運転に努めなければならないこととなっておりますが、現在のところ管理・指導が行き届いているようで

事故や違反の話はほとんど聞きません。この状態をずっと続けていただきたいと思います。現在の安全運転管理者はどなたが務めているか総務課長にお伺いします。

○議長（仲田 強君） 執行部の答弁を求めます。

総務課長。

（総務課長 野村仁美君自席）

○総務課長（野村仁美君） お答えいたします。

安全運転管理者は、道路交通法に基づき施設ごとに一定台数以上の自動車を使用する場合に選任して公安委員会に届け出なければならないこととなっております。本市で選任が必要となる施設は市役所本庁と消防署となっており、本庁は総務課長、消防署は署長となっております。以上です。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

（6番 森 一美君発言席）

○6番（森 一美君） ありがとうございます。総務課長が安全運転管理者もやっておられるのですね。大変ですね、それは。この副管理者について誰か教えていただけたらと思います。

○議長（仲田 強君） 総務課長。

（総務課長 野村仁美君自席）

○総務課長（野村仁美君） お答えいたします。

副安全運転管理者は20台以上の自動車を使用している場合に、20台ごとに選任が必要となっております。市役所本庁の公用車台数が65台あることから副安全運転管理者は総務課長補佐と総務課職員2名の計3名を選任しております。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

（6番 森 一美君発言席）

○6番（森 一美君） ありがとうございます。わかりました。この安全運転管理者は時々講習を受けなければいけないと思いますけれど、直近の講習会はいつ行われたか、またそれに参加できたか、総務課長にお伺いします。

○議長（仲田 強君） 総務課長。

（総務課長 野村仁美君自席）

○総務課長（野村仁美君） お答えいたします。

安全運転管理者等法定講習会は、土佐清水市では毎年大体7月に開催されておまして、平成29年も7月5日に開催されております。安全運転管理者及び副安全運転管理者は毎年この講習を受講しております。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

(6番 森 一美君発言席)

○6番(森 一美君) ありがとうございます。講習というのはめんどくさいんですよね。ほんとに嫌なもんですけれど、しかし道路交通法はどんどん更新されています。また道路環境もそれを取り巻く環境も変化しております。新しく得た知識を職員に伝え事故防止に努めていただきたいと思います。

今回の質問の趣旨は、それとはちょっと違うんですけど、この車両点検というものについて、どのようになっているか教えていただきたいと思います。

市役所に来る機会がふえておりますけれど、仕業点検というものを行っているところに行き会ったことがございません。私が市役所に来る時間は全てを終わっているのかもしれませんが、消防署の前を通ると一斉点検を行っております。これを見ると、車両の状態を確認し、きょうも安全運転で頑張るぞというような意気込みを感じます。消防署の点検には、車両の状態の申し送りなどの意味も含まれておりますけど、ほかの市職員は毎日運転するのではないので、自分が運転するときにさっと確認するだけで終わっているのかもしれないと思います。車両の運行日誌はきっちりと記載されているようですけれど、法定の車両点検だけではなく自分の目で車両の状態を見る機会をふやしていただきたいと思いますがいかがでしょうか、総務課長にお伺いします。

○議長(仲田 強君) 総務課長。

(総務課長 野村仁美君自席)

○総務課長(野村仁美君) お答えいたします。

公用車の管理につきましては、土佐清水市自動車管理規程により行っております。消防署においては、消防車両の仕業点検を毎朝夕に行っているとお聞きしておりますが、市役所本庁では、公用車の使用頻度もさまざまであることから一斉に時間を決めて点検を行うのではなく、公用車を運転する職員が運転前に実施することとしております。

今後も、より安全に車両を運行できるよう全職員に対し仕業点検の実施について喚起を図るとともに、土佐清水市自動車管理規程において所属課長補佐を安全運転管理者補助者としておりますので、安全運転管理者補助者の活用により仕業点検の徹底を図ってまいります。

○議長(仲田 強君) 6番 森 一美君。

(6番 森 一美君発言席)

○6番(森 一美君) ありがとうございます。ぜひそうお願いしたいと思います。整備の行き届いた車両を安全に運転する習慣を実現するためには、ぜひとも車両の仕業点検というのを設けていただきたいと思います。

副市長にお伺いします。各課において仕業点検を実施していることとは思いますけれど、総

務課で全体を把握することは厳しい状況ではないかと考えております。副市長が安全運転の管理について総指揮をとるようにしたら全体に目が行き届きよいのではないかとと思いますが、副市長のお考えをお伺いします。

○議長（仲田 強君） 副市長。

（副市長 磯脇堂三君自席）

○副市長（磯脇堂三君） お答えします。

私も以前、総務課のときに安全運転管理者を務めておりましたので、公用車の安全運行につきましては、日ごろより気にかけて職員的安全運転の徹底を行っているところでございます。質問のように、副市長が安全運転の総指揮をとということでございますけれど、先ほど総務課が答弁したように、公用車の整備・管理につきましては、土佐清水市自動車整備管理規程を定め、整備管理者を選任して車両の安全確保を図ってまいっているところでございます。

また、公用車の日々の整備につきましても、総務課財産管理係で法定点検等を行い公用車の適切な管理に努めてまいりますので、今後とも総務課を中心に安全運転指導も含めまして指導徹底を行っていききたいというふうに思っています。以上です。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

（6番 森 一美君発言席）

○6番（森 一美君） ありがとうございます。安全運転管理については、みんなで努力しながら頑張っていたきたいと思っておりますけれど、市長にお伺いします。市長は当選されてから4年半余りになりましたけれど、これまでに車両仕業点検に立ち会われたことはございますか、お伺いします。

○議長（仲田 強君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） 総務課長が先ほど答弁いたしました、市役所では公用車の定期・定時の仕業点検は行っておりませんので立ち会ったことはございません。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

（6番 森 一美君発言席）

○6番（森 一美君） ありがとうございます。恐らくそんなことだろうとは思っておりますけれど、公務で使用する車両が点検不備で事故を起こしたということではさまになるものではございません。月に1度は安全運転管理者の立ち会いのもと、各課の代表車両を仕業点検するという日を設けたらどうかと思います。また、1年に一度くらい市長みずから仕業点検に立ち会う日を設けたらいいのではないかとと思いますけれどもいかがでしょうか、市長にお伺いします。

○議長（仲田 強君） 市長。

(市長 泥谷光信君自席)

○市長(泥谷光信君) 職員の交通安全意識の向上を図る意味でも大変意義あるご提案だとは思いますが、先ほど総務課長、副市長が答弁したとおり、公用車の仕業点検の徹底と注意喚起を行うとともに、公用車の使用頻度も各課によってさまざまにありますから、これまでどおり配置等も含め、より適正な管理に努めてまいりたいと考えております。

○議長(仲田 強君) 6番 森 一美君。

(6番 森 一美君発言席)

○6番(森 一美君) ありがとうございます。こんなめんどくさいことはやりたくないのが人情ですけど、ビシッと引き締まった点検をすることによって安全意識が高まって、交通安全対策ができると思います。ぜひやっていただきたいとお願いして、次の質問に入りたいと思います。

危機管理課長にお伺いします。11月29日の新聞に南海トラフ警戒情報、室戸市、黒潮町で課題検証と出ておりましたが、どんなことをするのか、警戒情報と課題についてわかっておりましたら教えていただきたいと思います。危機管理課長にお伺いします。

○議長(仲田 強君) 執行部の答弁を求めます。

危機管理課長。

(危機管理課長 岡田敦浩君自席)

○危機管理課長(岡田敦浩君) お答えいたします。

まず南海トラフ地震に関連する情報の概要でございますが、これは昭和53年に東海地震を対象に大規模地震対策特別措置法(大震法)が制定され、気象庁からの東海地震の予知情報を受けて首相が警戒宣言を発令し、自治体や企業が防災対策を実施するよう定められたところでございますが、この予知による対応について平成23年3月の東日本大震災以降検討が続けられ、政府の中央防災会議の作業部会より確度の高い予測は困難として大震法に基づく防災対応の見直しを柱とした報告書がまとめられました。この報告書を受け政府は防災対応を見直し、平成29年9月26日、南海トラフ地震に関する新たな防災対応の運用指針を示しました。新たな防災対応のポイントが5点示されております。

1、従来の予知を前提とした東海地震に関する防災情報の提供を取りやめる。

1、南海トラフ沿いでマグニチュード7以上の地震が発生及び東海地域に設置された観測機器に地震の前兆と見られる変化を観測した場合などに、気象庁が南海トラフ地震に関する臨時情報を発表する。

1、政府は臨時情報を受け関係省庁会議を開き、今後の取り組みを協議し住民に避難経路の確認などの注意を喚起する。

1、新たな対応は11月1日以降の暫定措置とする。

1、静岡県、高知県などをモデル地区に選び具体的な対策を検討する、とされております。

この5点目の具体的検討モデル地区に室戸市・黒潮町が選ばれ、津波避難と暮らしについて検討を始めるとのことです。県及び黒潮町に問い合わせたところ、12月7日に内閣府よりの説明を受け、県と町が連携しながら来年2月、4月にワークショップ開催、5月に中間報告、6月取りまとめを行い国へ報告、それを受けまして国のほうで静岡県よりの報告と合わせた課題、意見集約後、検討を行いガイドラインを示すというスケジュールであるとのこと、まだ具体的な内容には入っていない状況でございます。

課題・問題点としては、津波避難所に関する事項であると考えます。情報が国よりアナウンスされれば避難をしたい方が出てくる。本市の場合、津波避難所の多くは学校施設などで通常業務がある中どう対応するのか、またその運営スタッフをどう確保するのか、避難勧告は出すべきか、どのタイミングで出すのか、避難後も地震が発生しない場合、避難所をどのタイミングで閉鎖するのかといったことなどが懸念されております。以上でございます。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

（6番 森 一美君発言席）

○6番（森 一美君） ありがとうございます。大体のことがわかったんですけど、大変重要な問題だと思います。こんな重要なことを検証して、問題点を見つけ出して、その後各自治体に通知して実行していくというふうなことだと思いますけど、この国ののんびりした考えは理解しかねる状態です。明日にも起こるかもしれない地震・津波について全体で考えていくような問題じゃないかなと思います。関連のある自治体全部に通知して取り組み姿勢を検討させて、その中で問題点を解決するようにしないと、ほんとにいつ起こるかわからない南海トラフ大地震に間に合わないことが危惧されます。本市においても、黒潮町などから情報をもらって並行して取り組んでいかなければ間に合わないんじゃないかなと私は考えますけれど、危機管理課長のお考えをお伺いします。

○議長（仲田 強君） 危機管理課長。

（危機管理課長 岡田敦浩君自席）

○危機管理課長（岡田敦浩君） お答えいたします。

さきに答弁いたしましたように、問題、課題が山積みで、まだ国の方向性もはっきり示されておらず、市独自で取り組んでいくには余りにも不透明な状況でございますので、国・県・他市町村の今後の動向を注視してまいりたいと考えます。なお、この南海トラフ地震に関する情報は、11月1日より適用されておりますので、もし発表された場合は、本市は既存の災害対策本部組織で対応することとしております。以上でございます。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

（6番 森 一美君発言席）

○6番（森 一美君） ありがとうございます。国・県の取り組みで決めたことですからどうしようもないかもしれませんが、何事にも市民の生命・身体を守るためのことで、先へ先へと取り組んでいただきたいと思います。

続きまして、同じ日に載っておりました防災士組織ができたという新聞の記事、土佐清水市に防災士組織と出ておりましたが、土佐清水市防災士連絡協議会の概要についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 危機管理課長。

（危機管理課長 岡田敦浩君自席）

○危機管理課長（岡田敦浩君） お答えいたします。

防災士とは、防災に関する知識や技能を有し、NPO法人日本防災士機構が認証する民間資格を持った方で、災害時等におきまして社会のさまざまな場面で防災力の発揮が期待されております。この防災士制度は、平成7年1月の阪神・淡路大震災を教訓といたしまして、民間の防災リーダーを可及的速やかに養成する目的で組織化や制度設計の検討を経て、平成14年7月に内閣府によってNPO法人として承認され制度化されております。

本市でも39名の防災士資格者がおり、その中より自己の防災スキルを維持・向上させたい、防災士同士や市役所・自主防災組織などとの連携ができる仕組みが必要といった声が上がってきておりますので、当課より資格を有する方に案内を行い、このたび有志の方々12名により平成29年11月26日、土佐清水市防災士連絡協議会（西川英治会長）が設立されたところでございます。

県下においても防災士の方々による自発的な活動により、まず平成27年に高知市で、29年1月に南国市、3月に四万十市で防災士連絡協議会が発足し活動を行っており、本市は県下で4番目に組織化がなされたところでございます。11月26日の設立会においては、今後は市と協力・連携しながらスキルアップや地域の防災力を高めるための活動を行っていくという方向性が確認されたところでございます。以上です。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

（6番 森 一美君発言席）

○6番（森 一美君） ありがとうございます。この連絡協議会ができたということは、すばらしいことだと思います。自主防などと連携して市民のために頑張っていただきたいと思いますのですけれど、ただ、残念なのは防災士の数が現在市内に39人ということですか。非常に少なく寂しいと思います。もっとふやす努力をしたいと思いますが、私も次の試験にはぜ

ひ受験したいと思います。ふやすにはどのようにしていけばよいか、危機管理課長にお伺いします。

○議長（仲田 強君） 危機管理課長。

（危機管理課長 岡田敦浩君自席）

○危機管理課長（岡田敦浩君） お答えいたします。

市といたしましても、平成26年度より防災士講習会の受講料と登録料について補助を行い防災士の育成に努めてきたところがございますが、実績としては平成26年から28年の3年間で19名にとどまっております。今年度より市広報での周知に加え各種団体・協議会・事業所等への案内を発送しておりますので、引き続き周知を行い少しでもふやす取り組みを行ってまいります。

また、資格を有している方で協議会に参加いただけていない方につきましても、全員に再度加入の案内を差し上げたところがございます。あわせて本年11月に四万十市で開催されました講習会を本市より7名の方が受講しておりますので、氏名等確認できましたらこの方々にも案内をさせていただきたいと考えます。

森議員より来年度は資格を取るとのありがたい宣言をいただきました。既に同僚の細川議員は防災士資格を所有しておりますが、ほかの議員各位におかれましてもぜひ資格取得にチャレンジしていただき地域防災力の向上にご協力をお願いしたいと考えております。以上です。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

（6番 森 一美君発言席）

○6番（森 一美君） ありがとうございます。なかなか受験してくれる人を探すというのは難しいことだと思います。私の考えとしては、自主防災組織に最低2人ぐらいの防災士がいてほしいと思いますが、市長にお伺いします。組織の皆さんに防災士をふやすのでぜひ参加して、市長の後援会の皆さんに呼びかけしていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうかお伺いします。

○議長（仲田 強君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） 市長になってからこの4年間というものは、ハード事業を中心に集中的に整備を行いました。ただ、そのハード整備が終わったら、やはり防災意識が低くなるというか低下する、意識の低下というのが懸念されるところでありますので、そのためにもこのソフト対策強化の柱といたしまして、自主防災組織の強化や防災士の育成というのが急務であるというふうに考えております。実は私もことし受講する予定でありましたが、ちょうど公務との日程が重なって残念ながら見送っておりますので、ぜひ来年は一緒に資格を取りたいと思っ

ております。

この防災士制度の周知・案内につきましては、危機管理課長より答弁がありました。団体・協議会・事業所、そうした組織化されたところへの呼びかけを含めて、再度担当課と周知徹底を図るように指示してやっていきたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたしたいと思っております。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

（6番 森 一美君発言席）

○6番（森 一美君） ありがとうございます。ぜひお願いします。防災士になればまた危機管理意識についても高まってくるんじゃないかと思っております。ぜひ市長の支援者にも声をかけて、なるべく防災士の資格を持っていただきたいと思っております。

次に、また健康管理についてお伺いしていきます。前に言いました、かかと落としの運動、私はまだ続けております。何かよくなった、悪くなった、そういうのは全然わからない状態なんですけど、今の状態を続けていられるのはよくなってるんじゃないかと思っております。

きょうは皆様にレムナントという言葉について健康推進課長にお尋ねしていきたいと思っておりますけど、私はちょっと耳にしたことはあったんですけど、何のことか全然わかんなかったというのが実情です。ところが先日のNHKの番組を見ていると、レムナントの正体というふうなタイトルで放送がありました。これは残り物という意味でコレステロールの中の一種だそうです。健康推進課長、コレステロールについての認識についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 執行部の答弁を求めます。

健康推進課長。

（健康推進課長 戒井大城君自席）

○健康推進課長（戒井大城君） お答えいたします。

コレステロールとは脂質の一種で人間の血液中だけでなく脳、内臓、筋肉など全身に広く分布しており、細胞膜、性ホルモンや副腎皮質ホルモン、脂肪の消化吸収を助ける胆汁の材料になります。コレステロールというとよくないイメージを持たれがちですが、人間の体は約60兆個の細胞から成り立っており、その一つ一つを形づくる細胞膜の材料もコレステロールということを見ると、コレステロールはなくてはならない重要な役割を担っています。コレステロールとしては、善玉コレステロールと呼ばれる余ったコレステロールを回収する機能があるHDLコレステロール、反対にコレステロールを運ぶのみで回収する機能を持たないLDLコレステロールが悪玉と一般的に呼ばれています。どちらもコレステロールを運ぶ大切な役割を持っていますが、コレステロールが血液中にたまり、それが酸化すると動脈硬化を促すなど過剰に摂取すれば生活習慣病の原因となります。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

（6番 森 一美君発言席）

○6番（森 一美君） ありがとうございます。健康診断を受けて血液検査してもらったいろいろな数値が出てきます。その中のコレステロールを見ると、これは私の数値になりますけれど、総コレステロール210、HDLコレステロール36、LDLコレステロール140という数字が出ております。この数字を足すと176で総コレステロールの数字210には届きません。何か変だなと、そういうような感じで考えており、足りない分は何も関係ないだろうという結構安易な考えでございました。足りない分の34という数字がレムナントというコレステロールだそうです。LDLは課長が説明していただいたように悪玉コレステロールということなんですけど、このレムナントは超悪玉というふうな位置づけだそうです。動脈硬化の原因はLDLもそうですけど、LDLが血管壁に張りつきやすいような状態をつくるのがレムナントということを知りました。これを減らすのに役立つのはジョギングなど有酸素運動を続けるといいということなんですけど、私はジョギングは大嫌いです。だからなかなか減らすことができないんじゃないかと思って心配しております。ほかに減らす方法がないかというふうなことでですけど、健康推進課長、これを減らすと心筋梗塞や脳梗塞の人も減るだろうということですけど、健康推進課の皆さんも減らす対策に参加してもらえないかと思っております。健康推進課長にお伺いします。

○議長（仲田 強君） 健康推進課長。

（健康推進課長 戒井大城君自席）

○健康推進課長（戒井大城君） お答えいたします。

悪玉コレステロール（LDL）が動脈硬化を引き起こす場合は、血液中で活性酸素に酸化され血管壁を傷つけ血栓などをつくり動脈硬化を進行させます。しかし、レムナントの場合は、粒子が小さいため血管を傷つける働きが強く、動脈硬化を進行させる作用があり、より危険度が高いと言われています。食生活では、食べ過ぎないようにしたいものとして、脂肪の多い肉、鶏卵、魚卵、バターなど糖質の多い食べ物、甘いもの、お菓子、アルコールなどがあります。

たくさん食べたいものとしては、アジ、サバ、サンマなどの青魚や植物油、オリーブオイル、食物繊維の多い食べ物、野菜全般、キノコ類、海藻類、コンニャク、豆製品などがあります。

またウォーキング、ジョギングなど有酸素運動が効果的であり、健診等で定期的に血液検査を受け数値をチェックするとともに食事や運動、生活習慣に気を配ることが大切です。

今年度、保健事業の中で効果のあるウォーキングやチューブを使った運動による健康づくりとして脂肪燃焼運動教室を開催しました。来年度は脂肪燃焼運動教室に加え、40代、50代を対象としたより効果の高い筋肉増強運動教室の実施を検討しているところです。健康推進課

の職員も健康づくりを推進する立場からレムナントなど悪玉コレステロールを減らすために適度な運動とバランスのよい食生活に取り組んでいきたいと考えています。

○議長（仲田 強君） 6番 森 一美君。

（6番 森 一美君発言席）

○6番（森 一美君） ありがとうございます。いろいろ健康推進課でやっていただいていることがわかりました。私も何とか青魚を食べながら減らすような努力もしていきたいと思えます。非常に難しいことだということですが、それでもなおチャレンジしていかないといけないことと思っております。

去る11月2日の日に植杉君が亡くなりました。私もプライベートで知り合いです。事故というものはどこで起きるかわかりません。皆さんも気をつけて、ほんとに自分の健康は自分でしか守れません。一生懸命やっていただきたいと思います。また、年末になり、これから慌ただしくなります。現在、年末の交通安全運動が行われております。ぜひ職員の皆さん、議員の皆さんにも安全運転についてご協力をお願いいたします。皆様が健康と安全に留意して新しいよい年を迎えられることをご祈念して全部の質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（仲田 強君） この際、午食のため午後1時まで休憩いたします。

午前11時52分 休 憩

午後 1時00分 再 開

○議長（仲田 強君） 休憩前に続いて会議を開きます。

午前に引き続き一般質問を行います。

8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 皆さんこんにちは。無所属の西原強志でございます。平成29年12月会議の一般質問をいたしたいと思えますので、よろしく願いいたします。通告に基づきまして以下2点の事項について質問いたします。しばらくの間ご清聴いただきたいと思います。

1点目の平成30年度の一般会計予算編成方針についてお伺いいたします。平成30年度の予算編成に当たっては、本市は厳しい財政状況の中で予算編成に当たっていることについて承知しているところであります。一般財源の約66%を占める地方交付税が平成28年度から27年に実施した国勢調査による大幅な人口減少等の影響により約3億5,000万円の減額となり、平成29年度に引き続き30年度も同額の交付金が見込まれており大変厳しい財政運営を図らなくてはなりません。予算編成方針によりますと、財源不足の圧縮、財政健全化に努

めていくことが必要不可欠である。事業の緊急性、必要性、投資効果、類似事業の整理統合、優先順位の選択等十分に検証の上、既存事業を見直しし効率化を徹底するといった基本的な考えを示されているところであります。

平成30年度の予算要求書の締め切りは12月5日となっており、既に集計されていると思いますが、要求額及び要求額に対する財源内訳はどのような状況であるのか企画財政課長にお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 執行部の答弁を求めます。

企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

平成30年度の当初予算要求につきましては、ただいま西原議員からもありましたが、各課の提出締切日を12月5日として要求をいただいておりますが、現在その集計作業中でありますので、要求額、財源内訳とも金額がまだ固まっておりませんので、申しわけございませんが、きょうお答えすることができません。ご了承願います。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） ただいま企画財政課長から答弁いただきましたように、まだ集計されてないと、提出されていない課があるようでありますので、要求額等については出てないということですので了解いたします。引き続き企画財政課長にお伺いいたします。平成30年度の予算要求額に対する財源不足はどのような状況であるのかお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

今、答弁させていただきましたが、現在、各課の予算要求額の集計作業中でありますので、財源不足額についてもまだ金額が固まっておりませんのでお答えができませんが、ここ数年、要求段階で6億円から7億円の財源不足が生じており、査定で一定カットは行いますが、平成28年度当初予算では約1億3,000万円、平成29年度当初予算で約1億6,000万円の財政調整基金の取り崩しによる予算編成を行っております。市税等の歳入が大幅にふえるといった見込みはありませんので、平成30年度も大変厳しい予算編成になるのではないかと考えております。以上です。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 今、課長から答弁がありましたように、平年であれば要求段階で6億円から7億円程度の財源不足ということで、予算編成には1億3,000万円から1億6,000万円程度の不足が見込まれておったというような答弁いただきました。よくわかりました。集計されていないので、その辺はわからんといえますので了解いたします。

次に29年度の当初予算額は106億4,000万円でありましたが、平成29年度までに大型事業の収束により平成30年度の予算規模は減すると思われませんが、どの程度の予算規模になるのか企画財政課長にお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

現在、予算要求額の集計中でありまして、まだ予算査定も行っておりませんので、予算規模についてもお答えすることができませんが、清水小学校改築工事、それから学校給食施設新築事業、下ノ加江地区防災拠点施設建設工事などの大型事業というのが今年度で完了する一方で、平成30年度につきましてはメジカ産業再生プロジェクト事業でありますとか爪白キャンプ場整備、三崎保育園高台移転事業などの予算を新たに計上する予定でありますので、大幅に予算規模が縮小されるということにはならないのではないかとこのように思っております。以上です。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） ただいま課長の答弁によりまして、大幅な削減はないというようなことでありますので、昨年度並みであろうかと私は予想しております。よくわかりました。

続いて企画財政課長にお伺いいたします。ことしの9月に長期財政見通しを示されたところではありますが、本市はこれまで臨時財政対策債などの市債の発行や財政調整基金を取り崩して財政不足を埋めている状況にあると伺っているところです。公共投資的事業として南海トラフ地震・津波対策事業として、主な事業としては地域防災拠点施設整備事業、避難タワー、市庁舎の耐震化、小中学校の改築、中央公民館、保育所の改築等々市民の安心・安全を図るため推進してきたことは承知しているところであります。平成30年度には、大型事業が減額する中で財政運用の見通しなどをどのように立てているのか企画財政課長にお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

平成27年度の国勢調査による大幅な人口減等が影響し平成28年度は普通交付税と臨時財

政対策債を合わせ決算ベースで対前年度比約3億5,000万円の減という大幅な減額となったところでございます。また平成29年度におきましても普通交付税が対前年度比で約1,400万円の減額となっており今後もさらに減額が見込まれております。

一方で起債残高につきましては、平成29年度末の162億7,000万円をピークに大型事業が一定収束する平成30年度以降、減少に転じる見込みでございしますが、普通交付税の減額が続く上、公債費も高い水準で推移していくため実質公債費比率の推移を注視しながら交付税措置が不利な新発債を極力抑えるなど計画的な資金繰り入れを行いながら今後しばらくは大変厳しい財政運営が続くものと思っております。以上です。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 今の課長の答弁によりますと、今後においても厳しい財源状況が続くというような答弁をいただきました。よくわかりました。

次に企画財政課長にお伺いいたします。市は平成29年9月に長期財政見通しを立てていますが、今後はこの計画をもとに財政運営を図ることとなりますが、財政の中期収支予測はどのように見込まれているのかお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 企画財政課長。

（企画財政課長 横山英幸君自席）

○企画財政課長（横山英幸君） お答えいたします。

本年9月に改訂しました長期財政見通しの中で、収支状況につきましては、平成33年度以降財源不足が見込まれております。財源不足額といたしましては、平成34年度までが1億円台、35年から37年度が2億円台で平成38年度が1億円台の収支不足になるというふうに見込んでおります。以上です。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 33年度から34年度が1億円程度不足があり、35年にある程度大型な予算不足が予想されるというような答弁をいただきました。わかりました。

次に市長にお伺いいたします。市長選挙公約についてであります。泥谷市長は平成29年5月から2期目のスタートが始まったところであります。1期目の公約としては5つの基本政策が発表され、前期4年間において施策の推進を図ってきたところであります。今回の2期目の出馬に当たっては、市長は新たな政策の公約を掲げているところであります。平成30年度の予算編成に当たって、新たな政策の公約についてどのように事業の推進を図るのか、厳しい財政状況のところではありますが、その辺どうかお伺いしたいと思います。市長の所信をお伺

いたします。

○議長（仲田 強君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） 私の公約に掲げております新たな政策の中で、平成30年度の予算に盛り込むことを検討しているのは、高校卒業までの医療費無料化と第2子以降保育料無料化であります。ただし先日、人づくり革命として閣議決定された3歳児から5歳児の幼児教育・保育を原則として全て無償にし、低所得者世帯では高等教育まで無償化の対象を広げる政策パッケージが発表されておりますので、その動向にも注視してまいります。あわせて新三崎保育園の高台移転を初め子育て世代包括支援センターを創設し、妊娠期から子育て期までの母子保健や育児に関するさまざまな悩みなどに円滑に対応するため、保健師による専門的な相談業務等を実施し、切れ目のない支援を行うことで子育て世帯の負担を軽減し、より安心して子育てがしやすい環境の整備を図ってまいります。

また、竜串再開発事業として爪白キャンプ場の整備やメジカ産業再生プロジェクト事業では、冷凍保管施設を整備し原魚確保・魚価安定を図り基幹産業の復興を推進いたします。そして現在、市街地及び三崎地区の一部でしか提供のない光ファイバ通信網につきましては、現在、整備方式を精査しているところでありまして、市内全域へのサービス拡大を段階的に計画的に図ってまいりたいと考えております。以上です。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） ただいま市長の答弁によりますと、高校卒業までの医療費の無料化、それから第2子以降の保育料無料化等、この事業については国もそういうパッケージが出ているというような状況でありますので、そういう動向見ながら財源の要らん方向で、ぜひ検討もしていただきたいと思っております。高校の医療費無料化については、やはり健全な体で高校に進学しておりますので、財源としては余り要らないかと思っておりますが、波及効果等もある程度見込まれる中で、厳しい状況かもわかりませんが、ぜひこの辺についても推進を図っていただきたいと。また、もろもろの事業についても、何度も申し上げますが、厳しい財政状況の中ではありますが、やはり市民の幸せを願うて1つでも公約実現のために取り組んでほしいと願うものであります。よろしくお願いたします。

続いて市長にお伺いいたします。先ほども申し上げましたが、平成29年9月に長期財政の見通しが示されたところでありますが、積極的に南海地震・津波関連事業等の推進が図られてきたことは承知しているところであります。その結果、優良債による公債の発行によるもの、大型の起債発行となっていることから現状では公債費の増加を招いているところであります。

平成29年9月に策定した長期財政見通しによりますと、実質公債費比率の推移は29年度は17.9%、大型事業に伴う起債の償還が始まる32年度には18.2%と予想され、35年度における見込みは20.5%と2.3%実質公債費比率が高く推移するものとなっております。一般事業等の起債の制限のある25%に近づいている状況であります。

また一方、歳入においては人口減少による普通交付税交付額が減少する中で、厳しい財政が続くものと推察するところであります。本市の財政状況と当面する課題について市長の所信をお願いしたいと思います。

○議長（仲田 強君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） ご指摘のとおり、本市の財政状況はしばらくの間、大変厳しい状況が続くものと認識しております。特に実質公債費比率は平成28年度決算で17.9%という県内の市町村の中では最も高くなっております。ご承知のとおり、この数値が25%を超えると地方債の借入れが制限されますので、実質公債費比率の増減に大きく影響を及ぼす普通交付税や公債費の状況を注視しながら健全財政に努めてまいります。

また、財政調整基金の残高は今年度末で約10億円、あるいはそれを割り込むことも予想されます。厳しい財政状況ではありますが、職員一人一人が歳出抑制に努め、限られた財源の中で最大の効果を生むような事業の実施を心がけ、行政サービスの向上、市勢発展に向け取り組んでまいります。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 厳しい財源状況ではありますが、ぜひ今後とも市政の安定のために頑張っていただきたいと思うところであります。

それでは2点目の特別養護老人ホームしおさいの今後の施設運営についてお伺いたします。しおさいは、昭和48年4月に設立し当初から公設公営として事業運営を行ってから44年間余り、その間厳しい環境の中において経営を継続しているところであります。今後の施設運営のあり方について、しおさい経営改善検討委員会において検討を重ねてきていることから、現状においては、しおさいを運営するに当たって次のようなことが課題事項として経営改善検討委員会で論議されたとのこととあります。その主な大きな課題としては、人件費が歳出の8割を超えている状況の中で入所者の高齢化、重度化により体調不良での入院者が多く歳入の減少につながり、施設は築20年を経過して施設設備等の老朽化に伴う修繕費が増加しているなど、しおさい経営改善検討委員会は平成26年2月21日から第6回会議を経て平成26年12月11日に検討結果を市長に行っていると同っているところであります。その内容は、経営を圧

迫している最大の要因は、人件費率が8割を超えるという余りにも高い人件費であり、人件費削減という最大の課題が解決できない限り独立採算での経営は不可能で、市民の税金を投入するか民営化しかないという結論となっているところでもあります。また、しおさい運営検討委員会を平成28年1月6日に設置し、平成28年1月12日から1月19日の2回の運営検討委員会を行い検討した結果、民営移譲が妥当であると結論づけたとのこと。ただいま、しおさい運営検討委員会の検討結果の概要を申し上げましたが、このようにしおさいの経営改善検討委員会及び運営検討委員会での検討を重ねていますが、今後どのような経営運営の改善を図っていくのか、またどのような施設運営を行うのか、大きな課題であります。

このような状況の中で、しおさい園長に何点かについてお伺いいたします。初めに一般会計から繰入金及び基金からの充当金の年度別の合計額を平成25年度から28年度までの実績についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 執行部の答弁を求めます。

しおさい園長。

（しおさい園長 山本弘子君自席）

○しおさい園長（山本弘子君） お答えいたします。

一般会計からの繰入金額及び基金からの繰入金額については、平成25年度は4,133万4,413円、平成26年度は2,623万9,056円、平成27年度は4,664万5,531円、平成28年度は基金が枯渇いたしましたので一般会計から3,767万9,329円、基金から2,055万6,381円の合計5,823万5,710円となっております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 今の園長の答弁によりますと、25年から28年にかけて基金も含めて3,000万円から5,000万円程度の財源を充当しているというような実績であります。よくわかりました。次に平成29年度も8カ月を経過しましたが、現時点の平成29年度の決算見込み及び一般会計からの繰入金等の見込みについてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） しおさい園長。

（しおさい園長 山本弘子君自席）

○しおさい園長（山本弘子君） お答えします。

11月末現在におけます指定介護老人福祉施設事業の平成29年度の決算見込額につきましては、歳入合計が約3億6,000万円、歳出合計が約3億9,000万円となり約3,000万円の繰り入れが必要となる見込みであります。

一方、介護サービス事業につきましては、歳入合計が約3,900万円、歳出合計が約

3,500万円となる見込みであり約400万円の黒字を予測しております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） しおさいの会計については約3,000万円、それから介護について400万円程度の黒字と、差し引き2,600万円程度の赤字ということになっておりますが、これは現時点で1,000万円程度一般会計から繰り入れを予算措置しておりますわね。あと3,000万円は一般会計から負担をお願いせないかんというような状況になるんですかね。そういう考えでよろしいですか。

○議長（仲田 強君） しおさい園長。

（しおさい園長 山本弘子君自席）

○しおさい園長（山本弘子君） お答えいたします。

そのような予測となっております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） よくわかりました。3,000万円程度財源不足が生じるということでもありますので、よくわかりました。次に平成29年度のしおさいの決算見込み及び一般会計からの繰入金の報告をいただきましたが、一般会計から繰り入れを受けている中で、29年度において経営の改善についてどのように取り組んでいるのかお伺いしたいと思います。

○議長（仲田 強君） しおさい園長。

（しおさい園長 山本弘子君自席）

○しおさい園長（山本弘子君） お答えいたします。

経営努力といたしましては、今まで年4回の入所判定委員会を今年度から毎月開催といたしまして、また市内の医療機関の相談員や居宅介護支援事業所相談員への声かけなども行っております。今後は医療機関へ入院している比較的状态の安定している経管栄養者を積極的に受け入れるなどの対策を講じるとともに、引き続き市内外の医療機関及び介護事業所等への働きかけ、また民生委員さん等への情報提供を行うことで経営改善を図っていきたいと思っております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 園長の説明では、入所者の確保に努めるというような趣旨のようですが、ぜひですね、厳しい環境の中でもありますので積極的にそういうほうも取り組みをお願いしたいと思います。次に、しおさいへの希望入所者、つまり待機者はどのような状況であるのか。また待機者の推移はどのようなになっているのかお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） しおさい園長。

（しおさい園長 山本弘子君自席）

○しおさい園長（山本弘子君） お答えいたします。

入所希望者の状況といたしましては、医療機関等に入院中の方であるとか独居高齢者、高齢夫婦で在宅介護ができない、あるいは子供さんたちが市外で生活しており親の介護ができないといった状況となっております。平成25年度末から平成29年11月末までの年度別の待機者数は、平成25年度は25人、平成26年度は24人、平成27年度は32人と推移していましたが、平成28年度は2人、平成29年度の11月末現在は3人の入所手続を行っておりまして、現在待機者はゼロとなっております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 今、園長が答弁したように、25年から、26年、27年は25人、24人、32人と一定の水準は保たれておりますが、28年、29年については2人、3人ということで、現時点では待機者1人もおらないというような状況であります。現在においては、入所者の多様なニーズにより他の施設等においてもニーズに対応した施設整備が図られていると伺っているところであります。今後このような環境下において、当しおさいの施設利用者に対してどのような独自色を出して入所者対策をどのように進めていくのかお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） しおさい園長。

（しおさい園長 山本弘子君自席）

○しおさい園長（山本弘子君） お答えいたします。

先ほどの待機者数から見ましても状況は大変厳しいと考えます。このように待機者数の減少の原因としましては、やはり誤薬問題に対する市民の皆様のご信頼がいただけていないということとか、社会資源の充実によりまして他市町村の特老施設にも平成29年10月現在では14人と平成25年度からの統計と比較いたしましても、他の市町村での増加傾向ともなっております。それも1つの原因とも思っております。また、しおさい施設の老朽化も待機者数の減少の要因となっているのではないかと考えております。

しおさいがよかったと思っていただくためには、やはり今からソフト面を充実していくことが一番だと私は考えております。安心・安全をしっかりと提供すること、穏やかで優しい言葉かけを行う、誤薬予防のためにマニュアル遵守を徹底すること、当たり前のことなんですけど、そういうことが一番大事ではないか。それには職員一人一人の介護の質を向上していく、そういう意識改革を行うことが求められているのではないかと考えております。今後も市民の皆様にご評価いただける施設を目指して、さらなる取り組みを職員一同進めてまいりたいと思っております。

す。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 確かに施設の待機者が減少していることにつきましては、先ほど園長が言いましたように、これまでに誤薬問題もありました。そういう信頼の中で、信用性が取られてなかったという面も多々あるかと思えます。これについては現在の園長になって、いろいろと取り組みをされておまして、そういう問題も起きておりません。そういう問題一つ一つが入所の原因にもなっているのではないかと私は考えております。ぜひ職員一丸となってもろもろの問題、施設の老朽化は確かにあるわけではありますが、やはり信頼のある施設、入所できるような職員一丸となって取り組むようお願いしたいと思えます。よろしく願いいたします。

次に平成29年9月会議での予算決算常任委員会において、平成28年度の特別会計しおさいの一般会計からの繰出金に対する質疑があり次のような方向性が示された答弁がありました。しおさいの収支で、これまでの決算状況では、歳出全体の8割を人件費が占めているため、しおさいの経営が逼迫している中で、平成28年度から職員労働組合も含め協議を重ね、人件費の削減に向けて取り組んだ結果、行政職俸給表（二）を導入することが合意でき、平成29年度から3年間かけ激変緩和措置を講じ給料の適正化に取り組み実施しているとの答弁があったところであります。総務課長にお伺いいたします。行政職俸給表（二）に対応した職種の職名はどのような職名が該当するものかお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 総務課長。

（総務課長 野村仁美君自席）

○総務課長（野村仁美君） お答えいたします。

対象となる職名は、技能職員の給与の種類及び基準に関する条例第2条において調理員、介護員及びこれらに類するものとなっております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 今、課長から答弁ありましたように、介護員、調理員ということであります。わかりました。同じく総務課長にお伺いいたします。行政職俸給表（二）の対象となる職名及び職員数についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 総務課長。

（総務課長 野村仁美君自席）

○総務課長（野村仁美君） お答えいたします。

しおさいにおいては調理員が4名、介護員が28名となっております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 介護員が28名、調理員が4名と、合計32名になるわけですが、よくわかりました。続いて総務課長にお伺いいたします。次に技能職員の給与の種類及び基準に関する条例第2条第1項第1号においては調理員、介護員とあるが、同条第2号においては前号と掲げる者を除くほか、これらの者に類する者とあるが、どのような職名が該当するのかお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 総務課長。

（総務課長 野村仁美君自席）

○総務課長（野村仁美君） お答えいたします。

これらに類する者につきましては、地方公務員法第57条に規定する単純な労務に雇用される職員として、現在本市に具体的に対象となる職名はありませんが、守衛、清掃員、電話交換手、自動車運転手等が類する職名になると考えております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） よくわかりました。次に総務課長にお伺いいたします。激変緩和措置による行政職俸給表（二）に該当する職員の平成29年度から31年度までの年度別の人件費削減の見込額についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 総務課長。

（総務課長 野村仁美君自席）

○総務課長（野村仁美君） お答えいたします。

対象職員の平成28年度給与等の決算額と比較いたしますと、平成29年度は1,072万円、平成30年度は1,543万円、平成31年度では2,356万円程度の削減になると見込んでおります。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） この適正化によりますと、今、課長の答弁ありましたように、ことしは1,072万8,000円、来年度30年度は1,543万円、それから31年度は2,300万円との答弁いただきました。3年間通じて2,300万円程度の適正化が図られるということであると思いますが、よくわかりました。次に総務課長にお伺いいたします。平成28年度の行政職俸給表（二）の職種の人件費の額と激変緩和措置後の平成31年度の適正化による人件費の

削減見込額をそれぞれどのように見込まれているのかお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 総務課長。

（総務課長 野村仁美君自席）

○総務課長（野村仁美君） お答えいたします。

平成28年度が2億3,011万円で平成31年度が2億655万円となっております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） よくわかりました。28年度末が2億3,000万円、それから31年度末が2億600万円、差し引き先ほど言いましたように2,300万円程度の適正化が図られたということになります。ありがとうございます。次に総務課長にお伺いいたします。しおさい職員の一般任期付職員の公募についてどのような考えに基づいて実施したのか。また、どのような状況であったのかあわせてご答弁ください。

○議長（仲田 強君） 総務課長。

（総務課長 野村仁美君自席）

○総務課長（野村仁美君） お答えいたします。

しおさいの園長につきましては、これまで本庁職員を人事異動により配置しておりますが、以前より現場の職員の中から園長が1年から3年で人事異動により交代していることにより、施設管理者として専門的な職員の配置の要望がありましたので、平成30年度採用の一般任期付職員として社会福祉施設長または施設での勤務経験が5年以上ある者の公募を行ったものです。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） これは要望の中でこういう措置をとられたということですので、よくわかりました。次に総務課長にお伺いいたします。園長の一般任期付職員の採用について、条件面の給与月額35万円の積算の根拠についてお伺いいたします。

○議長（仲田 強君） 総務課長。

（総務課長 野村仁美君自席）

○総務課長（野村仁美君） お答えいたします。

しおさい園長の給与につきましては、土佐清水市一般職の職員の給与に関する条例において、課長の職務の級を行政職給料表6級としておりますことから、受験資格による経験年数等を加味した号給として35万円程度としております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

( 8 番 西原強志君発言席)

○ 8 番 (西原強志君) 6級の経験年数を加味して35万円に決めたということのようですが、よくわかりました。次に園長職の再募集について、市広報の12月号で市民への周知が図られておりますが、前回の公募の募集要領とどのような項目が変更になったのかお伺いいたします。

○ 議長 (仲田 強君) 総務課長。

(総務課長 野村仁美君自席)

○ 総務課長 (野村仁美君) お答えいたします。

園長の公募につきましては、受験資格を昭和38年4月2日以降生まれの方で社会福祉士等の資格を有し、社会福祉施設の長または管理者の経験が2年以上ある者として、10月2日から27日までを受付期間として公募しておりましたが、応募がありませんでしたので受験資格の年齢を5歳上げて昭和33年とするとともに、管理者経験2年ではなく勤務経験5年以上に変更し、12月1日から20日までを受付期間として再募集を行っております。

○ 議長 (仲田 強君) 8番 西原強志君。

( 8 番 西原強志君発言席)

○ 8 番 (西原強志君) 今回の課長の答弁によりますと、管理者の経験がなくても施設の経験が5年以上あれば、この公募に園長職に合致するというのと年齢を5歳引き上げたということでもあります。これはこれで結構やと思います。やはりしおさいに当たってはこれまでいろいろ環境の中で厳しい面がありますので、職員採用に当たっては十分その辺は検討していただきたいと思います。よろしく申し上げます。

次に副市長にお伺いいたします。しおさいの運営に関する件については、これまでの執行部の対応として人件費の適正化に向けて協議を重ね、3カ年をかけ激変緩和措置を設け職員の給与の適正化に努めていることに対して高く評価しているところであります。技能職員の給料の額についても、これまでの行政職(一)を適用してきたところについて、この適用に当たってのこれまでに国及び県より行政に対しての指摘及び行政指導があったのかどうだったのかお伺いしたいと思います。

○ 議長 (仲田 強君) 副市長。

(副市長 磯脇堂三君自席)

○ 副市長 (磯脇堂三君) お答えします。

議員ご承知のとおり、地方自治体の職員の4月1日現在の給料、手当、休暇等の状況につきましては、毎年6月に給与実態調査として県を通じて国に報告しなければなりません。報告の検収時に技能労務職の職員が存在する地方自治体につきましては、その職員についての給料は

国と同様の行政職俸給表（二）の適用を行うよう従前から指摘を受けてきたところでございます。あわせて平成26年度の人事院勧告で給与制度の総合的見直しがなされ、勧告後の平成27年度の国の実態調査により国の制度と異なる運用を行っている地方自治体につきましては、国に準拠するよう強く助言・指導が行われてきたところでございます。以上です。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 今、副市長の答弁でよくわかりました。実際これまでも毎年6月にそういう指導があったということでもありますので、これで一応職員の給料、格付に対する給料表の格付いいですか、これで終わったという考えでよろしいですか。再度お願いします。

○議長（仲田 強君） 副市長。

（副市長 磯脇堂三君自席）

○副市長（磯脇堂三君） 給料表の格付につきましては、先ほど総務課長からも話がありましたように、今、事務職と技能労務職、2種類の職種しかいませんので、これについては今後国からの助言というのではないものと認識しております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） よくわかりました。次に市長にお伺いいたします。先ほども申し上げましたが、施設運営に当たっては、経営を圧迫している最大の原因は人件費率が8割を超えるという余りにも高い人件費であり、人件費削減といった最大の課題を解決できない限り独立採算制の経営は不可能であり、経営改善検討委員会では市民の税金を投入するか民営化しかない。またその後の運営検討委員会では、民営、移譲が妥当であると結論づけたとのこと。また、このような状況の中で、職員労働組合との協議を重ねて技能職員が大半を占めるしおさい職員に対して激変緩和措置を講じ給料の適正化に向けて取り組んでいること。また、施設運営においても、先ほど園長からも答弁がありましたように、入所者の増等を図り介護報酬の収入の増に努めてるところであります。今後のしおさいの施設運営に当たって、どのような考えのもとで行うのか、その方向性について市長の所信をお願いしたいと思います。

○議長（仲田 強君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） 議員がずっと説明してまいったとおり、経営改善検討委員会、これ平成25年から26年に協議が行われ、また平成27年には運営検討委員会、この2つの委員会で大変厳しい答申を受けました。これはご承知のように、人件費の抑制ができなければ、もう

何ともならんというような指摘、さらには民営化が妥当だという厳しい指摘がありまして、この間、副市長を窓口といたしまして、ことしの4月から団体交渉といいますか職員団体との交渉を行ってきて、何とか人件費の抑制に手をつけたところであります。しかしながら、先ほどしおさい園長からも答弁がありましたが、平成27年には32名待機していた方たちが今はゼロという大変厳しい状況になっているということも認識しております。

また、施設の老朽化に伴いまして建てかえというのは避けて通れないというふうに考えております。ですから、当面は歳入の確保に全力を挙げながら、何とか黒字を目指す、これは職員の意識改革も含めて、ほんとに全力を挙げて取り組まなければならないことではあります。ただ、先ほども言いましたように改築するときには、やはり施設の民営化というのも視野に入れなければならないと思っておりますし、さらにこのしおさいのこれからの運営につきましては検討する必要があるというふうに認識しているところであります。以上です。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） 市長の答弁はよくわかりました。一定激変緩和措置で2,300万円程度の3年間で削減いきますか適正化が図られたところでありますので、今の市長の答弁によりますと、当分の間は公営で実施すると、施設も老朽しておるので、改築の時点で民営化も含めて検討するというような答弁であったと思いますが、当面については公営で実施するという考えで、市長もう一度その辺をお願いしたいと思っております。

○議長（仲田 強君） 市長。

（市長 泥谷光信君自席）

○市長（泥谷光信君） これからは聖域を設けず議論することが必要だと思っております。先ほど言いましたように建てかえの時期が迫ってきておりますので、これからの運営全体をどうしたらいいのかということも1つには視野に入れながらやっていかななくてはなりませんし、現在公募中の専門的な知識を持った施設長を配置することによって、これまでとは違う民間感覚の上に立った施設経営を目指していただきたいと思っておりますし、いろんな要素があると思っておりますので、そこは当面といいますか、今の状況の中で、これから先の施設のあり方を検討していきたいと思っております。

○議長（仲田 強君） 8番 西原強志君。

（8番 西原強志君発言席）

○8番（西原強志君） よくわかりました。いずれにしても介護員、調理員等については、一定の犠牲を払って今後の施設運営に協力するというところでありますので、今の市長の答弁では、直ちには民営化にならんということではありますので、ぜひ今後は介護報酬等の見込みを含めて

経営改善に向けて、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

以上をもちまして私の全ての質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（仲田 強君） お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会いたしたいと思えます。これにご異議の方はございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（仲田 強君） ご異議なしと認めます。よって本日の会議は、これをもって延会することに決しました。

本日はこれをもって延会いたします。

明12月12日午前10時に再開いたします。ご苦労さまでございました。

午後 1時51分 延 会